

# みやぎのだより

No. 136

みやぎの酪農農業協同組合広報誌

令和5年9月21日



【撮影】柴田支部 柳沼 美枝子さん

## CONTENTS

農林水産省 野中副大臣 視察	1	飼料情勢	5
青年部・婦人部総会の開催	2	飲水の重要性を考える	8
婦人部本吉支部視察研修会	2	Dairy Farmer ～中居林牧場～	9
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の 徹底について	3	令和5年度 生乳生産実績	10
インボイスの登録番号の申請はお済みですか?	3	人事のお知らせ	10
酪農動向調査	4	理事会通信	10
ミルクキャンペーンキャラクター募集の お知らせ	4	売りたい、買いたい	11
		編集後記	11

8月3日に農林水産省から野中副大臣が酪農の現地視察のため、宮城県仙南地域を訪問されました。新型コロナウイルス感染症や家畜伝染病予防として感染対策や防疫措置を徹底し、今般の酪農情勢や飼料等資材の価格高騰による酪農家の現状を把握するため、蔵王支部の(一財)蔵王酪農センターと白石・七ヶ宿支部の押野達也さんの牧場で視察が行われました。

(一財)蔵王酪農センターでは、チーズ工場や預託牛舎、搾乳牛舎など畜産クラスター事業を利用し、整備・改築された一連の施設を視察され、経営方針や現状について意見交換が行われました。現在、行っているホルスタイン雌の育成牛の預託に加えて、将来の酪農を考えた際に、肉用牛とも連携した方が有利となるため、受精卵を活用した黒毛和種の素牛生産を行っていききたいと菅井常務理事は話されていました。飼料価格高騰対策として耕畜連携で稲WCSを入手しているが、それに関する交付金の受け取りの要件を緩和してほしいといった要望を野中副大臣に訴えておりました。

押野牧場では搾乳牛舎内を主に視察され、現在の酪農家の状況について意見交換が行われました。押野牧場では現在、自給飼料の生産だけでなく、ビール粕や醤油粕等の食品残渣を利用し、コスト削減に取り組んでいるが、近年の飼料価格高騰により安価な食品残渣の需要が高まり、単価が上がっていると押野さんは話されていました。また、他にも酪農に携わる機械や電気代も値上がりしているとも話されていました。現状、戸数が減るばかりで酪農家同士の交流や酪農の地域への貢献が薄れつつある。酪農家と地域の支えが無くなってしまふのを何とかしてほしいとの要望に対し、野中副大臣は今回の視察で得たものを農政局や地元議員に伝え、議論を喚起していきたいと話されていました。



(左：菅井常務理事、右：野中副大臣)



(中央：野中副大臣、右：押野達也さん)



(左：野中副大臣、右：押野達也さん)

## 青年部・婦人部総会の開催

指導課

みやぎの酪農協青年部及び婦人部の令和5年度通常総会が対面にて4年ぶりに開催されました。青年部は8月9日(水)に美里町「みどりの会館」、婦人部は8月18日(金)に大和町「まほろばホール」で開催されました。

総会は、各支部からの代議員2名ずつ出席され、執行部が提案した議案がすべて原案の通り承認可決されました。

また、今年度は役員改選があり、新役員として青年部長に仙南支部の小峯真喜氏(前副部長)、婦人部長には登米支部の佐藤典子氏(前副部長)が選出されました。



## 婦人部本吉支部視察研修会

指導課

7月19日(水)にみやぎの酪農哺育育成センターにおいて、婦人部本吉支部の視察研修会を開催しました。

佐藤所長より哺育舎と育成舎を視察しながら各月齢の餌給与メニューや授精状況及び事故・疾病対策等について説明がありました。

参加者からは、今後自家育成スペースの改修を考えているので参考にしたい等、積極的に質問されており有意義な研修会となりました。



新型コロナウイルスの感染症法の位置付けは5月8日に「5類」に移行され、感染者数は全数把握から定点把握に変更となりました。県内の1医療機関あたりの感染者数の平均値は、7月中旬には10.12人、8月中旬では17.38人、8月下旬では29.54人と増えている状況にあります。

今後も、会食等を伴わない、基本的な感染拡大防止対策(マスク、手袋の着用、手洗い)を徹底していただいた上で、組合組織活動の継続をお願いいたします。

また、生産現場においては、感染拡大防止対策と生乳生産活動の両立を図ることが最も重要であります。集乳事業者等の業務に支障をきたした場合、生乳廃棄という最悪の事態を招くことが想定されます。

酪農経営者や従事者及び同居家族が感染した場合は、引き続き組合へ連絡をお願いいたします。



## インボイスの登録番号の申請はお済みですか？

10月1日よりインボイス制度が始まります。これに先立ち、組合では組合員の登録状況を確認しております。

登録番号を取得していないと、取引先が仕入れ控除ができず消費税を多く支払うこととなります。ご自身の利益を守るためにも、登録番号の申請をおすすめします。

なお、現在検討中の方は9月30日までに登録番号の申請をすると、税務署長が発行する「適格請求書発行事業者の登録通知書」が届かなくても、10月1日を登録開始日とすることができます。

令和5年8月1日現在の宮城県酪農動向調査結果をご報告します。

当組合においては生乳出荷戸数203戸、乳牛飼養頭数は9,750頭、1戸あたりの平均飼養頭数は48頭となっております。前年同月と比較すると、育成牛が253頭減少していることから、交配する種雄牛の選択に迷いながら行っていると思われ、今後の生乳生産基盤の弱体化が懸念されます。

## 宮城県酪農動向一覧

(単位:戸・頭)

組合名	令和5年8月1日						令和4年8月1日						比較増減					
	出荷戸数	飼養頭数	経産牛		未經産牛 18ヶ月以上	18ヶ月未満 育成牛	出荷戸数	飼養頭数	経産牛		未經産牛 18ヶ月以上	18ヶ月未満 育成牛	出荷戸数	飼養頭数	経産牛		未經産牛 18ヶ月以上	18ヶ月未満 育成牛
			搾乳	乾乳					搾乳	乾乳					搾乳	乾乳		
みやぎの酪農	203	9,750	5,919	977	1,016	1,838	221	10,446	6,428	896	1,031	2,091	-18	-696	-509	81	-15	-253
全農宮城県本部	53	2,540	1,548	208	382	402	59	2,757	1,644	264	384	465	-6	-217	-96	-56	-2	-63
宮城酪農	93	4,091	2,539	395	427	730	100	4,359	2,685	427	388	859	-7	-268	-146	-32	39	-129
宮城県	349	16,381	10,006	1,580	1,825	2,970	380	17,562	10,757	1,587	1,803	3,415	-31	-1,181	-751	-7	22	-445

## ミルクキャンペーンキャラクター募集のお知らせ

販売課（牛乳普及協会）



宮城県牛乳普及協会では、「ミルクキャンペーンキャラクター」を下記のとおり募集しています。  
ご親族やお知り合いに興味のある方がいましたらご応募お待ちしております。

- 任 期 2年(令和6年4月1日～令和8年3月31日)
- 募 集 期 間 9月28日～10月26日
- 応 募 資 格 県内在住の18歳以上の男女
- 問 い 合 わ せ 先 宮城県牛乳普及協会 TEL:0229-34-2366

# 飼料情勢

## 北米コンテナ情勢

米国西海岸における北米西岸港湾労組と雇用主団体の労使交渉は現地6月14日に暫定合意に至っていますが、正式合意については秋頃と見込まれています。

カナダ西海岸ではカナダ西岸港湾労組と雇用主団体の労使交渉が行われていましたが7月1日よりストライキに発展し、一時的にバンクーバー港で貨物の滞留や荷役遅延が発生しました。7月13日に一度、暫定合意となりましたが、カナダ西岸港湾労組が政府からの和解案を否決したことから再びストライキとなりました。その後、再度交渉が行われ7月30日に暫定合意となりました。

現在は正常稼働となっていますが抗議活動の影響で港湾が混雑しスケジュールの遅延も発生しており早期の解消が望まれています。

## 輸入粗飼料

### ①ビートパルプ(US産)

23-24年産の播種は終了しています。春先の冷涼な気候により播種作業が遅れましたが、気温の上昇とともに生育は順調に進んでいます。7月前半は乾燥した気候となりましたが後半は適度な降雨もあり、今後天候が安定すればスケジュールの早い地域で8月中下旬頃から23年産の収穫作業が開始される見込みです。

市場については輸出向け・米国向けの需要も少ないため供給に必要な分のみを短期的に買付しており、依然として産地相場を慎重に見極める状況が続いています。

### ②アルファルファ

#### (ワシントン産)

主産地コロンビアベースンでは天候に恵まれたこともあり、例年より早く2番刈の収穫が終盤を迎え、早い圃場では3番刈の収穫が行われています。収穫された2番刈の品質は色目が良く上級品が多く発生しています。

新穀の取引については22年産の歴史的な高値を受け慎重に買付を進めている輸出業者に対し、生産農家は少しでも高値で販売したいと考えているため依然として買付進捗も低調のままで産地相場を見極める動きが続いています。

#### (オレゴン産)

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了し、7月下旬から2番刈の収穫作業が開始されています。23年産の1番刈は例年よりも1週間遅い6月中旬から開始されました。作況については天候の回復を待って収穫した影響で、刈取り適期を逃し生育が進んだ圃場もあり、成分値の低下が懸念されましたが、例年同様、上級品が生産されています。

同州のクリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。6月中旬より収穫作業を開始しましたが、収穫作業中に降雨被害があり6~7割程度が雨あたり品となり良品の発生は限定的です。

産地相場は米国内乳価の軟化、米国内酪農家の購買力が低下していることもあり、引き合いは弱く、需要は低調に推移しています。輸出向けでは中東向けで高成分のアルファルファを買付している輸出業者もありますが、買付進捗は低調となっています。上級品不足の影響で近隣州から買付に入る動きもあるため、今後の動きには注意が必要です。

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在5番刈が収穫中です。産地では連日40℃を超える気温が続いており、過乾燥気味なサマーハイ中心の発生となっています。23年産は1番刈から3番刈は高成分の上級品が多く中東向けで買付が進みましたが、4番刈以降成分値が低下していることもあり需要は低調に推移しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのアルファルファの作付面積は145,769エーカー（前年同期は130,758エーカー）と前年同期比111%と増加しています。

同州北部のディクソン地区では現在3番刈の収穫作業が終盤に差し掛かっています。産地は酪農地帯から地理的に近いこともあり、1番刈は旺盛に売買されていましたが、2番刈以降米国内需要が落ち着いてきたことから相場は軟化しています。

### ③チモシー

#### (US産)

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは1番刈の収穫作業が終了しています。コロンビアベースン南部の早い圃場では7月下旬より2番刈の収穫作業が開始されています。23年産は春先の冷涼な気候で推移していたものの5月下旬の急激な気温の上昇や、収穫期の不安定な天気の影響で上級品の発生は限定的となり、中級品～低級品の発生が大半となっています。1番刈の生産量についても昨年と比較すると20-25%減少しています。

23年産も前年と同様に豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作している圃場も多く、2番刈の生産量は減少すると見込まれています。

#### (カナダ産)

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では乾燥した状況が続いたため、例年より遅い収穫進捗となっていました。7月下旬より収穫が開始されました。生育期に山火事の煙による日照不足の影響で23年産の収穫量は大幅に減少することが予想されています。

同州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫作業は終了しています。収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となっています。

市場については、産地相場を慎重に見極めているため輸出向けの動きは少ないものの、干ばつの影響や収穫量の減少でカナダ内酪農家からの需要も多く好条件で取引されており、今後の産地相場には注視が必要です。

## ④クレイングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫が終了し、圃場によっては3番刈の収穫が開始されています。産地では連日40℃を超える高温が続き、高湿度の予報も出ていることから3番刈は茶葉の混入や茎質が固く、不安定な品質になることが懸念されています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,179エーカー（前年同期19,262エーカー）となっており、前年同時期比115%と増加しています。

## ⑤豪州産オーツヘイ

23年産の作付けは終了し生育期中盤に差し掛かっています。全豪的に平年を下回る降雨量となっており、特に西豪州では平年の30%～50%の降雨量と乾燥した気候が続いています。豪州の気象庁による8月から10月の降水量予測では、平年以上を下回る降水量になることが予想されており生産量の減少が懸念されます。

## 豪州コンテナ船情勢

コンテナ船の情勢については上級品の出荷が中心の西豪州で、出荷量に対し空コンテナが不足しているためフリーマントル港では混雑が続き遅延が発生しています。アジア地域の積替港の混雑は緩和されていますが、現状もスケジュールは不安定な状況が続いており、日本への入船が予定よりも遅れるケースも散見されます。





## 01 はじめに

生物の生命活動の全過程において、“水”は不可欠なものです。

乳牛は1日あたり約80ℓ、高泌乳牛になると100ℓ以上の飲水摂取を必要とされています。それだけの水を十分に供給できているでしょうか？

## 02 飲水量の測り方（ウォーターカップ）

タイストール牛舎において、乳牛の飲水量を推測するにはウォーターカップの吐水量を量る方法が利用できます。

① ウォーターカップの下に大きなバケツを置く。

② 最初にウォーターカップを満タンにして更にレバーを押し、カップからあふれ出した水量を一定時間量る。

③ これを1分間当たりの吐水量に換算する。

（酪農ジャーナル臨時増刊号：乳牛群の健康管理のための環境モニタリングより）

ウォーターカップ吐水量を量り、1分間あたりの量が4～5ℓであれば、1日に必要な飲水量が確保できていると考えられます。ここで注意しなければならないことは、牛は“1日の飲水量の30～50%を搾乳後1時間の間に摂取する”ということです。これは搾乳前後に飼料が給与されていることと大きく関連していますが、パーラー洗浄等で水を多く使用している時間帯と一致する為、両方を満たすだけの水量・水圧が必要となります。この時間帯に十分な吐水量が確保できているか、チェックすることが重要です。

この時、水源からの距離（例：牛舎の入り口側と一番奥）によって吐水量が異なる場合があります。牛舎内の複数のウォーターカップで吐水量を確認することが肝要です。

## 03 飲水量が少ない事例

ウォーターカップの吐水量が1分間あたり1ℓにも満たない状況で、超音波水量計で飲水量を測定したところ、配水管を流れる水の流量が少ない事例がありました。乳牛がより多くの乾物（飼料）を摂取するためには十分な水分を摂取する必要があり、飲水が十分に行えないことで、飼料摂取量を制限してしまい、栄養充足が不足し乳量の低下および、低酸度二等乳が発生しました。

## 04 おわりに

乳牛が“水”を獲得するための飲水行動が制限されることは、飼料の摂取量、生産乳量に大きく影響を及ぼします。さらに、暑熱時期には飲水量が増えます。暑熱ストレスは牛の体感温度を下げるのが最優先ですが、水をしっかりと飲める環境づくりも重要です。

“水”について改めて一考してみてもいいのではないでしょうか。



## 中居林牧場

今回のご紹介は、「遠田支部・中居林美紀さん」です。

中居林牧場では、乳牛に数十種類の天然由来のエッセンシャルオイルを使用した飼養を行っています。エッセンシャルオイルとは、香りにより心身を癒すアロマテラピー（香りによる自然療法）に使用される植物から抽出したオイルのことです。

## ●エッセンシャルオイルを使用したきっかけ

昨年、乳牛が早産のうえ起立不能となった際、SNSで繋がりのある方に相談したところ、「関節の力を応援する効果が期待されるエッセンシャルオイル入りのサプリメントを与えてみてはどうか」とアドバイスをいただき給与した結果、翌朝には起立可能となりました。

また、血便の子牛に消化器系に効果が期待されるエッセンシャルオイルを給与し腹部に塗布した結果、血便が改善されました。始めは、使用してみて効果がないならやめようと半信半疑だったが、効果が現れ選択肢の一つとして使用することになりました。

## ●ヘルスケアが主目的

以前は乳牛に異常がある度に獣医による治療を行っていました。

しかし、拘束時間や金銭的なことを考慮し、未病予防としてエッセンシャルオイルを使用しています。

天然植物には様々な作用効果が期待されることから、症状により、種類別に効果等が記載された専用事典で調べて使用しています。

また、エッセンシャルオイルを使用している畜産農家や獣医とのグループラインを通して情報交換を行いつつ、日々勉強しています。

結果的に、使用開始から1年程経過するが、使用以前より薬品代や獣医の治療代が抑えられています。

## ●暑熱対策にも

搾乳牛や子牛の暑熱対策に冷感マフラーを使用していますが、マフラーを濡らす際に、ペパーミントのエッセンシャルオイルを使用することで、冷却感がアップ、より効果的となります。また、ミネラル配合のエッセンシャルオイルを給与することで、今夏の猛暑でさえ、ばてることなく乗り切れました。

## ●最後に

「牛だけではなく、自分達がエッセンシャルオイルを使うことで、心身ともに健康になりつつ、持病が安定し、良い方向に向かっている。一緒に勉強していただける仲間も増やしたい。」と話されておりました。

また、中居林夫妻は乳牛や動物に対して愛情を持って接し、心身の負担軽減を考慮した飼養により、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理に努めていることが取材を通して感じ取られました。



【中居林夫妻】



【エッセンシャルオイルを使用している様子】

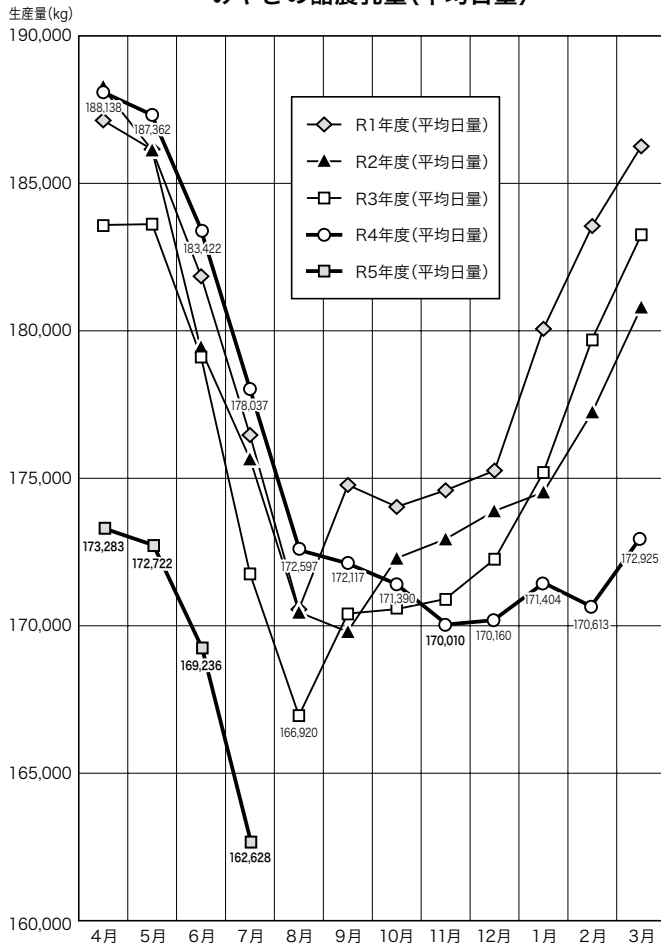


【ペパーミントを付着させた冷感マフラーを着用】

# 令和5年度 生乳生産実績

販売課

みやぎの酪農乳量(平均日量)



令和5年度生乳生産実績(4月～7月 標準進捗率33.42%)

(単位:kg、%)

支 部 名	戸数	バルク乳量	前年同期乳量	前年同期比	生乳出荷目標数量	進捗率
白石・七ヶ宿支部	21	2,878,650.2	2,944,572.1	97.76	8,540,424.5	33.71
蔵王支部	22	2,727,773.0	2,922,682.0	93.33	8,292,107.6	32.90
柴田支部	12	1,274,859.0	1,278,478.0	99.72	3,656,818.4	34.86
伊具支部	14	1,312,442.0	1,589,204.0	82.58	4,391,264.6	29.89
仙台支部	9	1,078,118.0	1,280,944.0	84.17	3,376,791.8	31.93
名取支部	3	195,219.0	239,653.0	81.46	644,325.1	30.30
黒川支部	4	169,469.0	320,008.0	52.96	770,506.3	21.99
大崎支部	17	1,059,967.0	1,137,227.0	93.21	3,166,240.1	33.48
遠田支部	12	3,252,108.0	3,340,022.0	97.37	9,708,527.1	33.50
加美支部	7	582,533.0	581,483.0	100.18	1,666,432.3	34.96
鳴子支部	7	525,161.0	612,402.0	85.75	1,706,131.9	30.78
栗原支部	26	1,902,111.0	2,089,269.0	91.04	5,667,710.8	33.56
登米支部	23	2,324,073.0	2,562,805.0	90.68	7,138,972.7	32.55
本吉支部	9	372,310.0	469,513.0	79.30	1,290,700.4	28.85
石巻支部	5	165,769.0	244,210.0	67.88	653,287.6	25.37
豊里支部	10	850,833.0	861,722.0	98.74	2,509,949.5	33.90
みやぎの酪農	201	20,671,395.2	22,474,194.1	91.98	63,180,190.5	32.72

※出荷戸数については、直近の数字です。

## 人事のお知らせ

総務課

区 分	氏 名	新 職	旧 職	発 令 日	備 考
正 職 員	日野みつ子	—	仙南支所指導係 兼業務係	令和5年7月31日	定年により退職
正 職 員	鹿野 浩子	—	仙北集乳所販売係	令和5年7月31日	退 職
有 期 職 員	日野みつ子	仙南支所指導係 兼業務係	—	令和5年8月1日	定年者再雇用

## 理事会通信

総務課

### 【第4回理事会】

開催日 令和5年8月7日  
 付議事項 第1号議案 専門委員会委員等の選任について  
 第2号議案 固定資産取得について

### 【第5回理事会】

開催日 令和5年8月30日  
 付議事項 第1号議案 宮城県農業信用基金協会求償権償却に伴う増資について

No	支 部	販 売 者	出生年月日	分娩予定日	区 分
1	白石・セヶ宿支部	(有)ファームイチカワ	R3. 6. 1	R5.12. 3	交雑種
2			R3. 8. 5	R5.12. 21	交雑種
3			R3. 7. 21	R6. 1. 21	交雑種
4			R3.11. 20	R6. 2. 3	交雑種
5	加 美 支 部	正 永 昭 太 郎	R3. 9. 26	R5.10. 4	ホル 性判別
6			R3. 7. 2	R5.10. 8	ホル 性判別
7			R3.11. 27	R5.12. 30	ホル 性判別
8			R3. 8. 22	R6. 1. 3	ホル 性判別
9			R3. 5. 21	R6. 1. 5	交雑種
10			R3.12. 30	R6. 3. 8	ホル

## [ 編集後記 ]

今回は難関小学校の入試問題を参考にしたクイズを出題いたします。

『A牛とB牛は兄弟です。同じ父牛と同じ母牛がいて、同じ年の同じ日に生まれました。しかし、双子ではないと言います。なぜなのか理由を教えてください。』

答えは次号に掲載いたします。

発行 .....

遠田郡美里町北浦字道祖神前16

**みやぎの酪農農業協同組合**

TEL. (0229) 34-2311 (代表)